

NPO 法人

ちゅうりっぷのうた便り

NO. 182
2018. 4月

あたたかい春風にのって

卯月(4月)は早すぎる桜花の開花と共にやってきました。「はよ～花見ばせんば、花の散ってしまうよ！」急ぎ立てていただき、やっと3日にパノラマ孔園へお花見に行きました。コテージを借り、草スキー用のソリを借り、マイクロバスも借りて出発！！周りの声に違わずソメイヨシノの花はすっかり花びらを落とし、緑の葉の萌えだした木々ばかりでした。が、なんと八重桜は今を盛りに満開。しだれた枝に咲き誇る八重桜はすっかり心満たしてくれました。お弁当もおいしく、駆け回る子ども



たちの歓声や笑顔は仕事から解放され、ほっとくつろいだひとときを満喫できたようでした。車を動かして下さった田口さん有りがとうございました。

ちゅうりっぷの花、やあ～い！

みんなで一生懸命に植えこんだちゅうりっぷ、プランターにして道沿いに並べてみましたが、気候のせいかな？球根のせいかな？初めに咲いた黄色はかわいそうなくらい小さくいじけたような花しかつけないで・・・見ている私たちも切なくなりました。次に咲いた赤はしっかり花をつけスラリと伸び、きれいに咲いてくれました。少しほっとしたもの、きれいに咲きそろう“ちゅうりっぷロード”には今ひとつ届かず・・・次こそは！と唇かみしめているところです。せっかくお手伝いいただいたのに民生委員さん、ボランティアさんすみませんね。



有りがとうでいっぱい

4月2日は第一月曜日元町長夫妻、早木さんに資源物回収を手伝っていただきました。下惣や土元、各地区のあちこちからアルミ缶・紙類をいただきました。町内だけでなく佐賀市、小城、多良、白石、大町・・・と近く遠く運んでいただくこと有りがたいばかりです。又、伊達直子さんの変わらぬお心をいただき皆様の善意に囲まれていることにひしひしと感じます。



ギャラリーでは

4/4～4/15に開きました「のんびりお茶でも展2」は一人暮らしの97歳の母を思う親孝行3人兄妹のアート・土鈴展でした。今どき珍しい？(という言い方でいいのか)ことに長兄は相模原、次兄は我孫子、妹は北九州市から1ヶ月を3人で分けてほぼ毎日、母の側に誰かいてくれるという親孝行のお手本のような蒲原さん、永田さんたちと孫さんも含めた作品展でした。

最終15日(日)は午後からコンサート、蒲原さんのご友人率いるサワラクミンズの6名の方がかけつけてサクソ・トランペットバンドで、家田さんによる三線演奏、蒲原兄弟によるギターとフォークソングなど多彩な音楽に酔いしれ、ついには踊ってみたい・・・みんなが心弾んだコンサートでした。楽しませていただきましたこと、又、応援に駆けつけていただきましたこと心よりお礼申し上げます。有りがとうございました。



4月13日、“ちゅうりっぷのうた”設立15年になりました。これまで皆々様に支え応援していただいた感謝と今後のご厚誼をお願い致したく、15周年記念イベントとして14日(土)チャリティーバザーを開きました。たくさんの方にバザー用品のご協力をいただき、本当に有りがとうございました。当日はあいにくの雨で殆んど来場者はなく、今秋ビッキーまつりの時に改めてバザー用品を販売したいと思います。お詫びと感謝とお知らせまで・・・

引き続きのギャラリーでは

「抑留者の収容所生活の記憶—スケッチで辿るシベリア抑留生活—」東京からわざわざ取り寄せていただき展示の運びとなりました。終戦も知らぬまま極寒の地シベリアで強制労働をさせられた約70万人の内、何とか帰還できた方は約1割だったとか・・・収容所のスケッチや添書きで改めて戦争の過酷さを知りました。当初来場者は少なかったのですが、週末は増えて胸をなでおろしました。遠くは鳥栖、多良、伊万里、佐賀市・・・からと。ご来場いただいた皆様、本当に有りがとうございました



5月のギャラリーは未定です。

障がい福祉作業所・ギャラリー ちゅうりっぷのうた
代表 本村容子

☎849-0501 佐賀県杵島郡江北町大字山口1399番地7(肥前山口駅南)
【TEL・FAX】0952-86-4520 【ホームページ】 <http://tulip8.com>

